

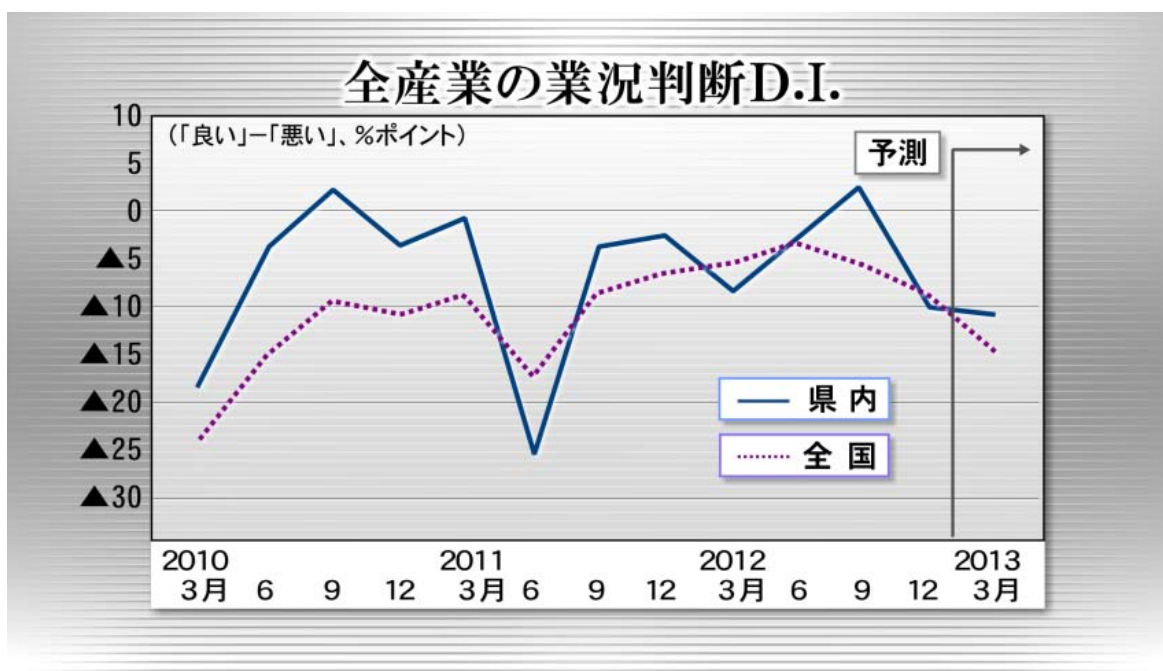
[番組名] 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」  
[放送日] 2012年12月21日  
[テーマ] 持ち直しの動きが一服した県内景気

(キャスター) 『プラスオピニオン』のコーナーです。本日は、日本銀行前橋支店長の相良雅幸さんに、「持ち直しの動きが一服した県内景気」というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いいたします。

(相良支店長) よろしくお願ひします。

県内景気は、夏が過ぎた頃から持ち直しの動きが徐々に弱まっていますが、ここへきて持ち直しの動きに一服感が窺われています。そこで、私どもでは、今月、「持ち直しの動きが一服し、横ばい圏内の動きとなっている」との表現で、景気判断を下方修正しました。その背景を、11月から12月に実施し、今月半ばに公表した「企業短期経済観測調査」いわゆる日銀短観の結果からみてみましょう。

まずは、「業況判断D.I.」をご覧ください。



(相良支店長) このD. I. は、業況が「良い」と答えた企業の比率から「悪い」と答えた企業の比率を引いたものです。「良い」と答えた企業が多いほど、数値は高くなります。青色の線が県内の動き、赤色の線が全国の動きです。今回の12月調査では、全産業が▲10と、前回の+2から大きく悪化しました。悪化となったのは、今年の3月調査以来です。先行きは、▲11と悪化が続く予想です。なお、全国のD. I. も、前回の▲6から今回▲9へ悪化し、先行き▲15へさらに悪化する予想です。

(キャスター) 県内の業況判断が大きく悪化したのは、どのような理由からでしょうか。

(相良支店長) 県内の業況判断が悪化した背景には、海外経済減速の影響が製造業を中心に広がっていることが挙げられます。そこでまず、製造業の中でD. I. が悪化した業種をみてみましょう。

### 製造業の業種別業況判断D.I. 「良い」－「悪い」、%ポイント

		12年9月	12月	13年3月 (予測)
加工業種	電気機械	▲ 15	▲ 21	▲ 32
	生産用機械	0	▲ 20	▲ 30
	はん用 "	50	▲ 25	▲ 25
	業務用 "	0	▲ 34	33
	輸送用 "	45	30	25
素材業種	化学	▲ 14	▲ 57	▲ 57
	鉄鋼	0	▲ 22	▲ 56
	非鉄金属	▲ 75	▲ 100	▲ 50

(相良支店長) 加工業種においては電気機械や生産用機械、はん用機械、業務用機械など、また、素材業種の中では化学や鉄鋼・非鉄金属などで幅広く悪化しており、いずれもマイナス、つまり「悪い」と答えた企業の数が多い結果となっています。また、電気機械や生産用機械、鉄鋼では、マイナスの幅が拡大する予測となっています。これらの業種の「業況判断D. I.」が悪化している背景には、海外経済減速の影響が着実に広がっていることが挙げられます。欧州の景気後退に加えて、中国経済も減速した状態が長引いており、こうした国へ直接輸出している企業や、これらの国へ輸出する製品の部品を作る企業の中に、景況感が悪化している先が増えてきたのです。

また、これまで堅調だった輸送用機械についても、海外経済減速の影響が生じています。輸送用機械は、全体ではまだ大幅なプラス、つまり「良い」と答えた企業の数が多い結果となっていますが、プラスの幅が縮小しています。これは、全国にある大手自動車メーカーの取引先の一部で、業況が悪化しているためです。もちろん、全国の輸送用機械と比べると、県内企業の海外拠点や輸出は経済が堅調な北米が多いため、良好な状態は維持しているのですが、良好の度合いが少しずつ弱まっています。

(キャスター) 業況判断が悪化するということは、企業の収益面への影響も出ているということなののでしょうか。

(相良支店長) はい。その点について、製造業の事業計画でご説明します。

		前年度比、%		
		2011年度 (実績)	2012年度(計画)	
			9月短観 修正率	12月短観 修正率
売 上	▲3.1	13.4	▲0.8	0.0
経常利益	▲42.8	65.5	▲8.1	▲4.3
設備投資額	31.8	▲2.3	▲1.6	▲6.4

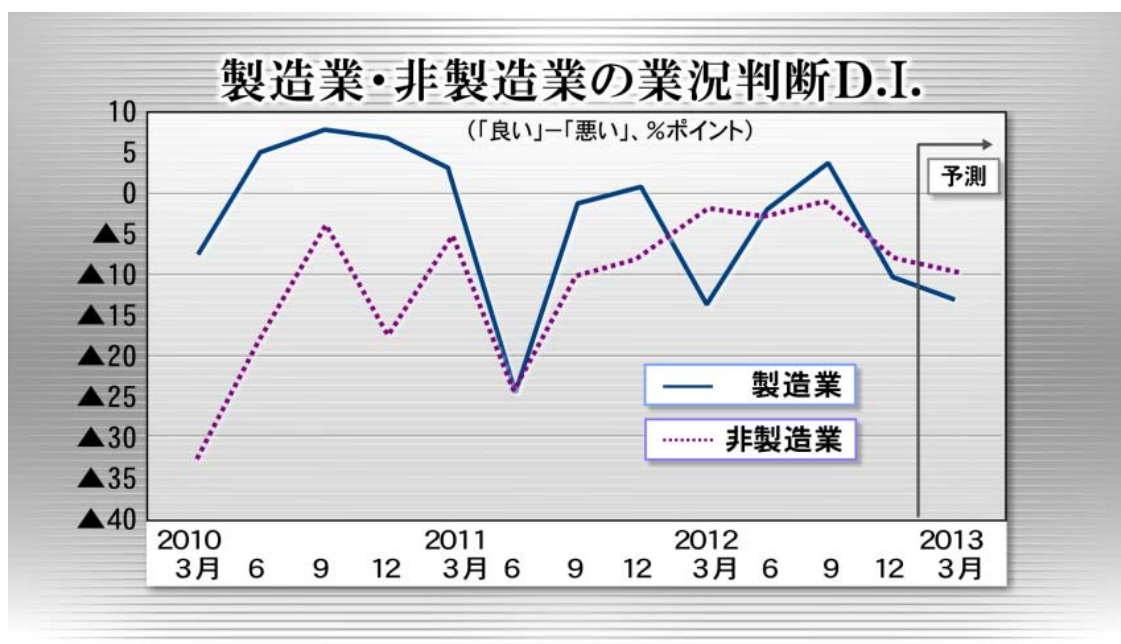
(相良支店長) 製造業の事業計画は、2012年度には増収増益となる見通しです。この数字だけみると、かなり好調のように見えますが、まず、2011年度に減収減益となった後の戻りで伸びているという点に留意していただく必要があります。そして何より注目すべき点は、今年度に入ってから計画の変化です。2012年度計画の修正率をご覧くださいとお分りのように、9月調査、12月調査と下方修正ないし横ばいに止まる結果となっています。これは、海外経済減速の影響が、期を追う毎に広がり、かつ徐々に深まっていることが影響していると考えられます。

また、製造業の2012年度設備投資が、前回調査では前年比プラスだったのに対し、今回はマイナスに転じ、2009年度以来3年振りに減少する計画となっていることも、大きな変化点です。

以上のように、製造業の事業計画は、着実に慎重化してきていると言えます。

(キャスター) 製造業の減速感は分かりましたが、非製造業には、どのような特徴がみられたのでしょうか。

(相良支店長) 非製造業の業況判断D.I.も、製造業と同様に悪化しました。この点を、次の表で具体的にみてみましょう。



(相良支店長) 非製造業のD.I.は、前回の▲1から今回▲8となり、先行きも▲10へ悪化しました。減速感の生じている製造業へ人材を派遣しているサービス業などへの影響が表れてきたのです。ただ、悪化の程度は製造業よりも緩やかです。

以上のような短観での業況悪化の動きや最近の様々な企業活動の状況などを踏まえて、私どもでは、今月、「持ち直しの動きが一服し、横ばい圏内の動きとなっている」との表現を用いて、景気判断を下方修正したのです。

(キャスター) 最後に、来年の景気をみていくうえでの注目点としては、どのようなことがありますか。

(相良支店長) 注目すべきポイントについて、次のフリップにまとめてみました。

## 今後の注目ポイント

① 海外経済の動向

② 個人消費への影響

(相良支店長) まず、何と申しましても、海外経済の動向です。海外諸国は、現状、自国の様々な課題を抱えています。堅調な米国経済は、減税措置の終了など「財政の崖」と呼ばれる問題への対応が不透明なため、政策面での決着について目が離せません。欧州経済は、景気が緩やかに後退しており、債務問題の克服が中長期的な課題となる中で、改善の道筋が明確に描けていない状況です。中国経済は、欧州向け輸出の減少や素材産業における在庫調整などから減速が長引いており、今後、安定した成長軌道へ移行できるかどうか注目されます。県内経済が持ち直しの軌道に戻ることができるのか、それとも業況悪化の度合いがさらに強まっていくのかは、年明け後の海外経済の動向に大きく影響を受けますので、よくみていく必要があります。

第2に、個人消費への影響です。企業の業況悪化によって、有効求人倍率が低下するなど、雇用・所得面にも弱い動きが出てきています。今のところ底堅い動きを維持している個人消費を抑えるような影響は出ていません。ただ、今後、個人の消費活動に何らかの影響を及ぼすことがないかどうか、注意深くみていく必要があります。

(キャスター) 今日は、「持ち直しの動きが一服した県内景気」ということで、お話をうかがいました。ありがとうございました。